

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171200332
法人名	有限会社 太陽
事業所名	グループホーム ひまわりの郷
訪問調査日	平成20年3月19日
評価確定日	平成20年5月20日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171200332		
法人名	有限会社 太陽		
事業所名	グループホーム ひまわりの郷		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字寄人119番地-1 (電話) 0942-81-9097		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年5月20日

【情報提供票より】(平成20年3月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(3月19日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 74 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	斉藤整形外科医院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い田園を前にした集落の一角にあり、静かな環境である。管理者が地元出身で地区の役員もしており、季節の野菜の差し入れ等があり、近隣の人の出入りも多く、入居者も地域の祭りに参加したりし、日常的に地域の人との交流があり、地域に受け入れられている。ホームは新築で2年経過しているが清潔感のある居住空間である。家庭的な雰囲気を持つグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	会社の理念があり、これを玄関に掲げ職員は唱和している。前回の外部評価ではグループホーム独自の理念を明示することを提案されているが、まだ検討中でホーム独自の理念を作り上げるまでには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を管理者や職員は理解しており、今回の自己評価も管理者、職員が話し合い取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には地区の区長、地区評議員が参加しているが、会議では自己評価、外部評価を議題にし、サービスの質の向上に生かすまでには至っていない。運営推進会議と評価を結び付け一層の向上が図られることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月一回は家族が面会を兼ねて来られるように配慮している。家族面会時には健康状態、日常の暮らしぶりなど細かに報告している。苦情や要望についてはカンファレンスを開き、職員間で検討し対処している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人々の受け入れはよく、村祭りや「ほんげんぎょう」などの行事に積極的に参加している。地域との交流は管理者が地元のこともあり、良い関係を作り上げている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念があり、これを玄関に掲げ明示している。日常の暮らしの中では地域の中に溶け込んでいるが、グループホーム独自の理念は現在検討中である。	○	地域の人々と連携を持ち、地域の中に溶け込む努力が見られる。今後もその努力を期待したい。グループホームの理念についてはホーム独自のものは、まだ明確にされていない。ホーム独自の理念を作り上げることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は会社の運営方針に基づきこれを共有し、介護に取り組んでいる。会社の運営方針は管理者から職員に伝えられ、毎朝唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々の受け入れはよく、村祭りやほんげんぎょうなどの行事には積極的に参加している。地域の人々と連携を持ち、地域の中に溶け込む努力が見られる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を管理者や職員は理解している。今回の自己評価も管理者、職員が話し合い取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地区の区長、地区評議員などが参加し開催されている。会議の中でサービス評価の取り組みや結果について話し合われるまでには至っていない。	○	運営推進会議では、評価で明らかになった課題についても報告し、取り組みや改善経過に対するモニター役になってもらうなど評価と運営推進会議を一体的に活かしていくことによる相乗効果を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同系列の宅老所が一時預かりの業務をしている関係で行政との関わりがあり、ホーム独自でも行政関係に出向くことを心掛けている。	○	直面している運営やサービスの課題解決に向け協議し共に取り組んでいくことができる行政担当者との一層の関係づくりを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回は家族が面会をかねて来られるように配慮している。家族の面会時には健康状態や日常の暮らしぶりなど細かに報告している。職員の異動についても利用者が動揺しない方法を話し合い実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望があればカンファレンスで検討し対処している。苦情相談箱は玄関に設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はなじみの関係の大切さを理解しており、職員も馴染みの関係を作れている職員が多い。離職時にはダメージを考え、新しい職員も介護の経験が多い職員を採用するなどの配慮もしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では月1回カンファレンスを持ち、職員の自己研鑽の場としている。管理者は外部の研修会には積極的に参加をすすめ、職員が向上心がもてるように努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加することで仲間が増え、交流の場となっている。他ホームからの訪問等もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同系列のデイサービスや宅老所に通所していただき、少しずつ事業所の雰囲気慣れ、集団の中での暮らし顔見知りの関係を作り本人が安心できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者や職員は常に人生の先輩であることを念頭に置き関わっている。芋むきや草取り、掃除など日常の暮らしの中で本人が出来ることは尊重し、よい関係が保たれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の思いを大切にされた支援に努めている。本人本位の関わりは、出来ることを支援しその思いに近づく努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を尊重しながら、職員間で意見交換を行い、入居者がその人らしく暮らしていける事を目標に個別性のある介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に応じて定期的に見直されている。状態の変化 家族の希望があった場合などにも随時見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者が看護師であり排泄のチェックや水分摂取量の把握など健康管理は十分行われている。身体的に重度化した場合などにも対応出来るようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応できる協力医療機関との連携ができており、適切な医療が受けられるように支援している。本人や家族の希望を受け入れ、かかりつけ医との連携もとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には、重度化した場合や終末期について本人や家族と話し合い、意向に沿うようにしている。職員の中に看護師が3名居り、職員間ではターミナルケアのあり方をカンファレンスで話し合い共有している。		
家族の					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりのプライバシーを尊重し個人情報保護法についても理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべての事に強制はせずゆっくりとした時間配分を考え関わっている。その人らしくを念頭に置き、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえなど入居者が得意な分野を職員は知っており、もてる力を発揮できるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は1日おきに決められているが、入居者の意向を尊重し、いつでも入浴できるように柔軟な対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近くの神社への散歩は毎日の日課であり、入居者の楽しみにもなっている。参加、不参加はその日の本人の気分に合せ、自由に選択している。芋むき、草取りなど楽しみにしている入居者もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩は毎日行っているが、近くに商店等がなく個人的な買物などの外出は家族に依頼している。週一回、ホームを訪れる「パン屋さん」での買物がある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけない暮らしを支援している。22時から翌朝6時までにはセキュリティシステムがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団とは親密な関係である。災害時には応援を依頼できるように近隣には協力を依頼している。災害時の対応マニュアルもあり、職員に周知させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感のある野菜等の近隣から差し入れがある。献立は同系列デイサービスの栄養士に相談をしている。職員は食事摂取量、水分摂取量も把握し適切な支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広くないが、居間の奥に台所があり、家庭的である。居間にはソファがおいてあり、入居者は思い思いのスタイルでくつろいで過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込まれた家具等は少ないが、いずれの部屋も清潔に保たれ、居心地よく過ごせるように工夫されている。	○	使い慣れたものや好みの物を使用することの大切さを家族に伝え、持込みの協力を得て馴染みの物を活かした、その人らしく過ごせる居室づくりの一層の充実を期待する。